

# 7 地域連携セミナー (令和元年12月22日)

## 7-1 基調講演：小さな自然再生の大きな役割

兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 兼  
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 講師

三橋弘宗さん

### <小さな自然再生とは>

- ・ホームセンターで安く買えるようなものを地域の小さな河にうまく設置するだけで、河川の生き物環境をかなり改善できる。(例 パープ工の設置)
- ・小さな自然再生は、大きな土木工事と比べると誤差といわれるようなこともあるが、大きな役割があると考える。
- ・タクティカル・アーバニズムという都市に公開空き地をというような運動が世界各地で起きており、小さな自然再生はそれとも通ずる。
- ・山田堰(中村哲さん)がアフガニスタンで行われていた活動も同じ発想だった。(斜め堰を人力で作し、農地の灌漑として水を利用する)
- ・秋田県庁の土木職員の研修でも小さな自然再生をやっている。100万円くらいでできるが、効果は高い。

### <副次効果、波及効果>

- ・もともと放置水路で、暗渠にして埋め立てという声が上がっていたところが、小さな自然再生を地道に行ったことにより、今では水車が建ち、きれいに整備されているところがある。
- ・小さな自然再生には副次的な効果が高く、波及効果がある。
- ・波及効果の例：取組⇒県表彰⇒RDB⇒新規分譲化⇒せせらぎ水路⇒総合病院⇒水路を中心として都市計画が進む

### <大事だと考えること>

- ・自分たちで調達すること、  
様々な人が参画できること、  
手直し、撤去が容易にできること。
- ・とりあえずやること。
- ・小さな技術だと早くから始められる。
- ・等身大でやるのが大事。



三橋さんのご講演の様子



## 7-2 話題提供

山梨大学 准教授 岩田智也さん



### <活動の概要>

- ・野洲川流域で5年間活動してきた。
- ・①湖育む森（甲賀市大原）
- ②いきもの育む水田（甲賀市小佐治）
- ③ゆりかご水田（野洲市須原）
- ④内湖つながり再生（草津市志那町）
- ⑤水草堆肥（琵琶湖の岸边）での活動を手伝いつつ、調査を進めてきた。
- ・特に流域全体で栄養循環や生物多様性、地域活動、地域の幸せについて調べてきた。

### <栄養循環と生物多様性について>

- ・リンに着目し、分布を調べている。
- ・リンがないと生物多様性が保てない一方で、リンが多いと富栄養化が起こる。
- ・上流はリン濃度が比較的低く、中流～下流ではリン濃度が比較的高い
- ・安定同位体を分析すると、上流では岩石由来の濁り成分、下流では水田や土壌由来の濁り成分であると分かった。
- ・琵琶湖に流れている粒状のリンは代掻き時に流れている可能性がある。
- ・夏場は、大雨で森林から多く供給される。
- ・底生動物の多様性を調べると市街地や水田からの水が増えれば多様性減ることが分かり、上流の森林管理、中流の濁水対策、冬季湛水、中下流の排水管理等には底生動物の多様性を上げる効果があることが分かる。
- ・濁水を流さないような小さな活動は流域の保全に寄与しているといえる。

## 7-3 地域の活動紹介

### ◆甲賀木の駅

- ・ 大久保里山再生委員会・ SATOYAMA+
- ・ 里山で様々な活動を行っている。
- ・ 木の駅プロジェクトでは、山の学習や薪割り体験、地域通貨（モリ券）の発行等を行っている。
- ・ 里山交流活動を行っている。里山を食べようと題し、イチゴを食べる等。
- ・ 整備を一緒にして一緒に楽しむことを心掛けている。
- ・ その他、生水めぐり等も行っている。

### ◆小佐治環境保全部会

- ・ 重粘土質はもち米と相性がよく、もち米を作っている。
- ・ 冬季湛水、水田内水路を行っている。
- ・ 生き物観察会を実施している。

### ◆湖南流域環境保全協議会

- ・ 資料をもとに南部環境事務所の桐畑主事が発表。



### ◆ 杉川と親しむ会。滋賀県立甲南高等学校

- ・ 環境学習を行っている。
- ・ 杉川水族館と題し、樹脂封入標本を小学校内で展示している。
- ・ 油日岳に登る他、水質のパックテストや生き物調査を行っている。
- ・ 河川敷立木伐採撤去作業を行いチップ化して果樹園に撒いたこともある。

## 7-5 総合討論

※本協議会からは金崎副会長が登壇

- ・ 観察会で生き物の個体数や種類を数える等、数字でわかるのは良い。
- ・ 杉川水族館では見える形で表現しており、面白い取り組みだと思う。
- ・ 上流で濁水対策を取っていただいていることがありがたいと感じる。（下流側の意見）
- ・ “楽しさ” や “見える化” が大事。
- ・ 上下流のつながりを感じて、琵琶湖にリンを流さない等の取り組みの連携が大事。
- ・ （上下流同士等）お互いが知り合いになることが大事。
- ・ 大きな視野で活動や実際の環境の変化等の関係を捉え、示していくことが研究者の役割。
- ・ 活動を続けていくなかで大事なことは、“楽に”、“効率的に”方法を考えること。
- ・ 小さな自然再生において湧水を探すのが大事。

川は除草剤、融雪剤等でキレイな水でないことが多い。

サーモグラフィで湧水は温度が高い（冬場）ので、見つけられる。

地域連携セミナーの様子は、総合地球環境学研究所のYouTubeサイト（地域連携セミナー）からご覧になれます。 <https://youtube.com/user/CHIKYUKENofficial>

